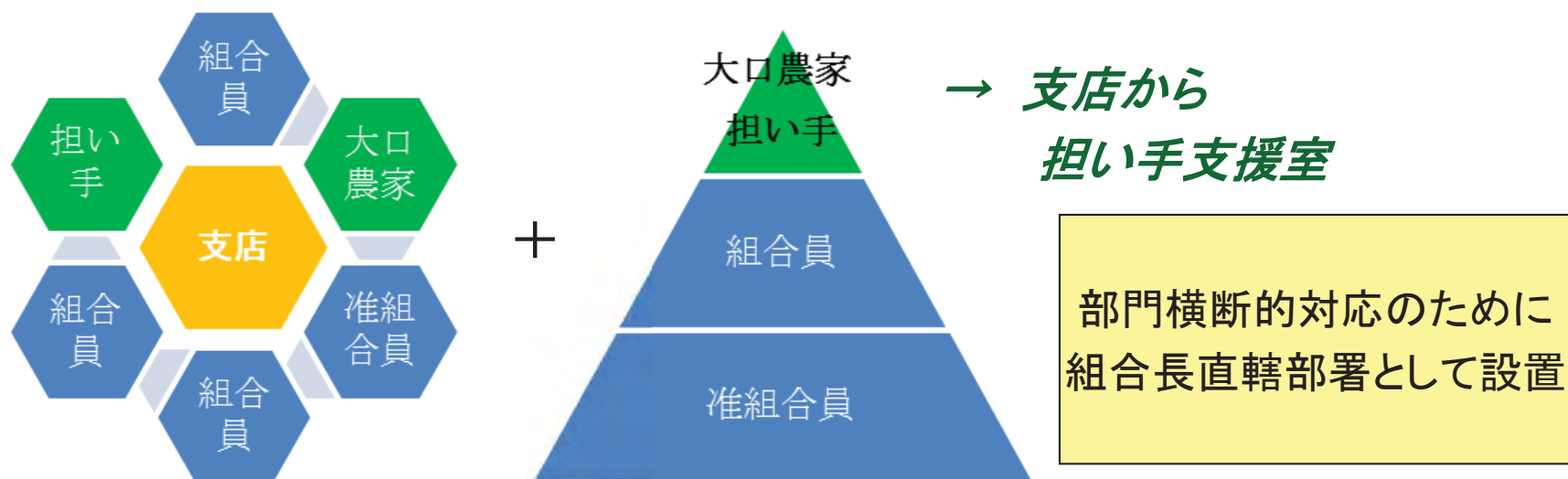
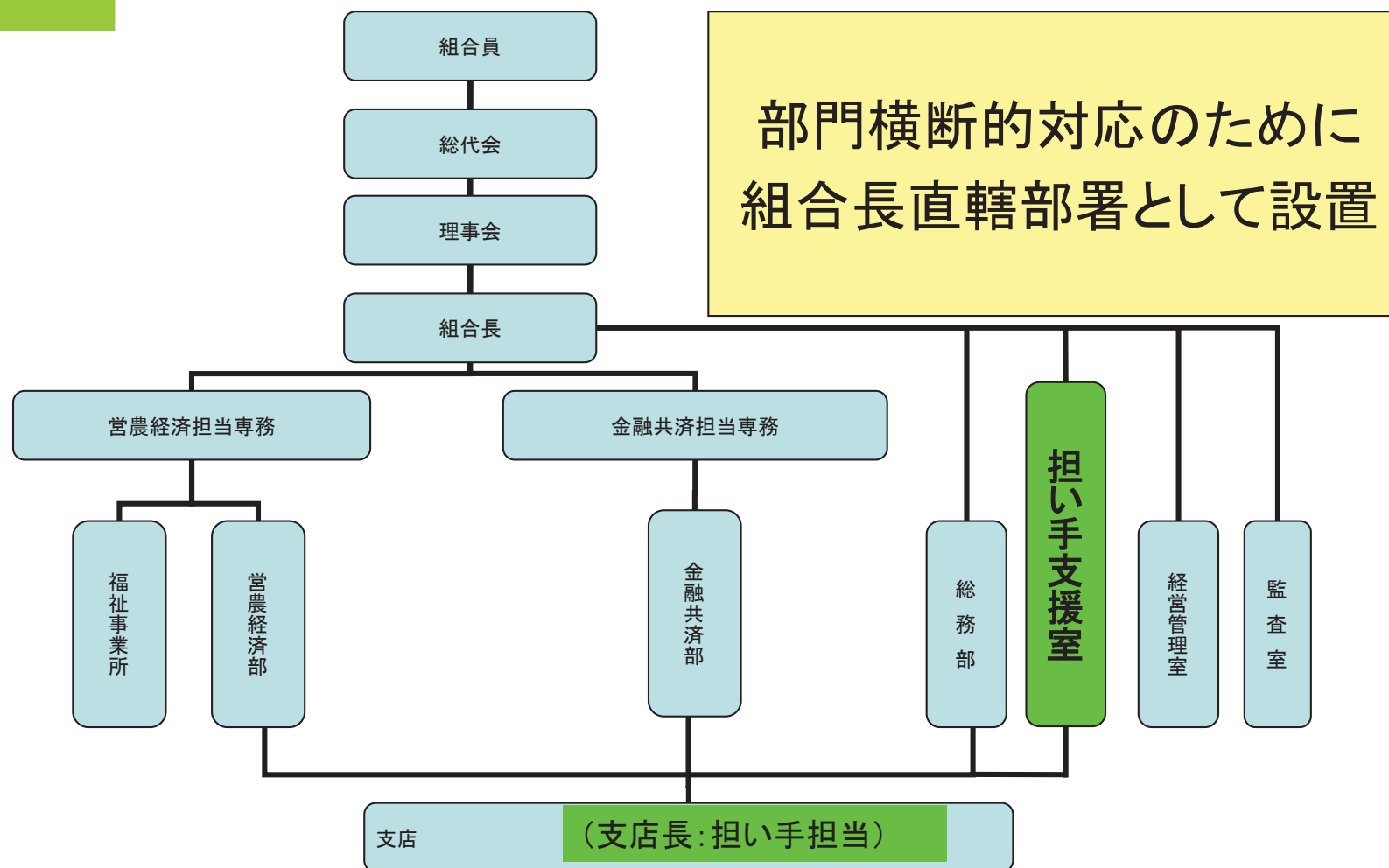


担い手支援室設置の目的

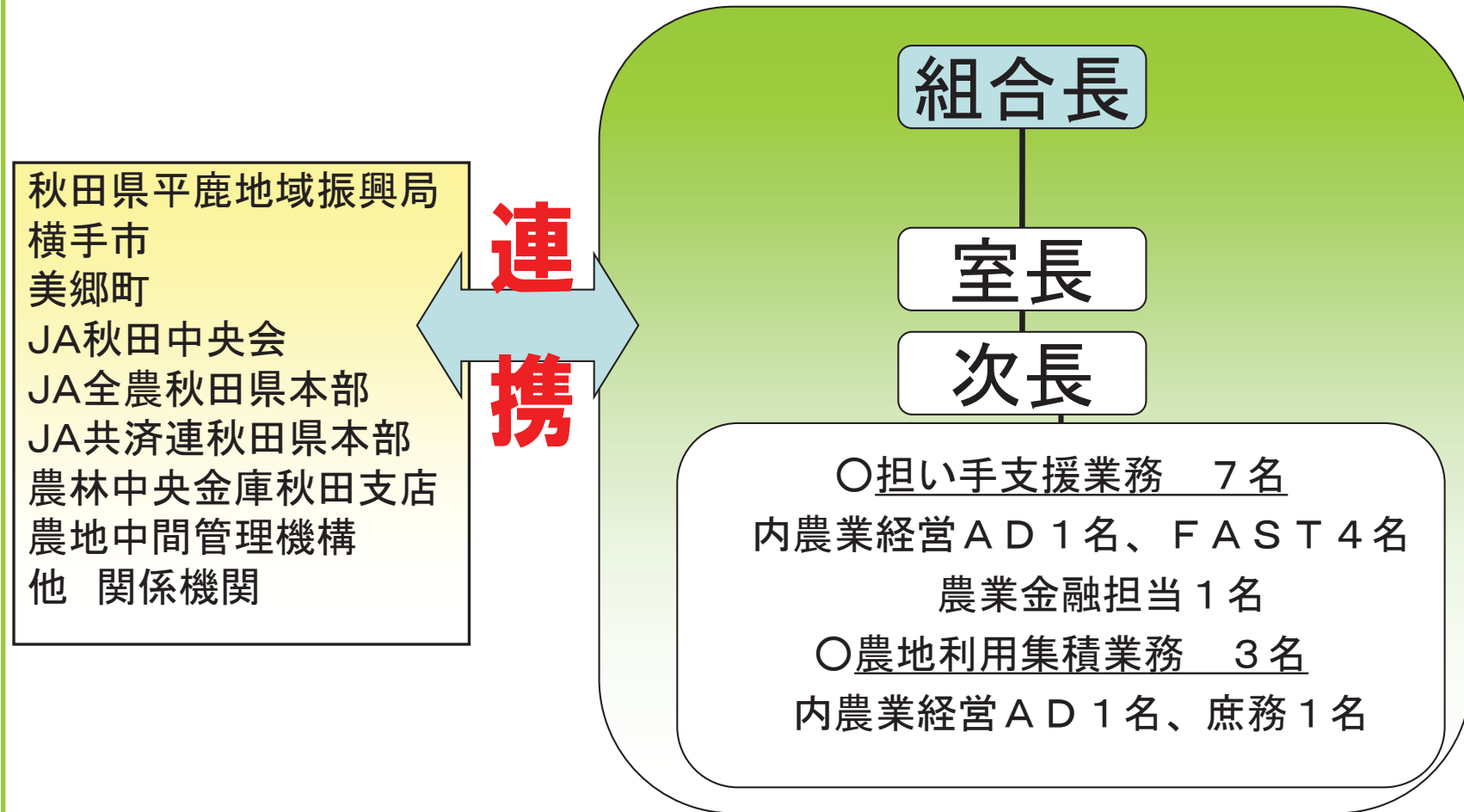
- 渉外活動を通して収集した情報の分析力の強化
- JAの中心的組合員対応のスピード感・機動性の強化
- 把握した課題の解決・経営相談のための部門横断的体制構築
- 組合員のFASTに対する信頼感をJAへの信頼感へ



担い手支援室の機構と業務内容



担い手支援室内の機構



「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けて

稲作指導GOGO(55)運動の実践

目指せ！収量5%アップ・生産コスト5%ダウン！

収量5%アップ

【目標】

「あきたこまち」の反収

収量目標：540kg/10a→570kg/10a

【具体的な対応】

- ① 兼業農家を対象とした「現地研修会」
- ② 生産部会を通じた栽培技術伝達
- ③ 指導技術向上と「出向く稲作指導」
- ④ 「稲作基礎講座」を開催

生産コスト5%ダウン

【目標】

生産コストと労力の見直しによる

「低コスト省力型」の米生産

【具体的な対応】

- ① 「ふるさとecoらいす」の推進
- ② 「プール育苗」の導入
- ③ 「育苗箱施用剤」の使用
- ④ 「ふるさと版防除体系」の確立・普及



園芸作物生産振興の取り組み

一組織一品目作付運動の展開

◎農業所得の安定確保を図るため、園芸品目を組み入れた複合経営を推進！

【土地利用型＋高収益安定生産作物の推進】

◎農業法人・集落営農組織を対象として組織の維持発展を支援！

新規又は規模拡大により、販売額3千万円の組織を
単年度3組織育成を目標に実施中

園芸作物生産振興の取り組み

横手市園芸メガ団地整備事業

- ◎ 平成25年から秋田県は、野菜の産出額を向上させるため、園芸振興をリードする大規模園芸団地を整備し、産地の大きな底上げを図るとともに、園芸作物を専作的に取り組む経営体を育成。
- ◎ JA秋田ふるさとが事業実施主体となり、27年度より3ヵ年で園芸田団地を整備し、販売額1億円を目指す産地を育成！



営農・経済事業の実績と課題

- ① 担い手・集落営農・法人とJAの距離感の圧縮
- ② 上記組合員に対する現状の把握と情報収集力向上
- ③ 経営指導・相談を求める声が年々増加
- ④ 営農経済部門だけでは解決できない課題・相談
- ⑤ 組織内のFASTへの過度な依存

～おわりに～ JA秋田ふるさとの担い手支援の考え方

見返りを求め組合員に支援する（give and take）
のではなく、

今までJAを利用し、支えてくれた組合員に恩返し
（take and give）をしていく。

「組合員のニーズを汲み取り、そのニーズを満たす
サービスを提供する」という想いを込めて・・・

- take and give -



秋田ふるさと農業協同組合

電話：0182-35-2630

<http://www.akita-furusato.or.jp>

Thank you for your attention.¹⁸